



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2021年9・10月
第342号

病院だより第342号 (2021年9・10月号)
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 森岡 幹
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

就任のご挨拶

藤が丘病院 薬剤部長代行
薬学部 病院薬剤学講座 准教授
藤原 久登

2021年7月1日に昭和大学藤が丘病院薬剤部長代行を拝命しましたので、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、1998年4月に藤が丘病院に入職し、薬剤師業務の基礎を学びました。11年間藤が丘病院に勤務した後、2009年4月より昭和大学藤が丘リハビリテーション病院に異動しました。ここでは、リハビリテーション領域の薬物療法を中心に臨床と研究に携わってまいりました。そして、約12年ぶりに藤が丘病院に戻ってまいりました。急性期と回復期では、医療サービスや個々の患者さんに応じたゴール設定などが変化していくため、薬剤師に求められる役割も異なりますが、「すべての患者さんの薬物治療に責任を持つ」という薬剤師業務の本質は、どのような環境においても変わることはありません。これまで通り、目の前の患者さんに何ができるかを問いかけ、また「患者さんから学び、教わる」姿勢を常に持った薬剤師業務を展開したいと考えています。そのためには、医薬品の供給や調剤・製剤を確実に行うだけでなく、医薬品の適正使用の推進と薬物療法の安全性と有効性を確保することが重要であり、チーム医療の一員として患者さんに最適な薬物治療が実施できるよう努めてまいります。



私は約23年間という長きにわたり、この藤が丘で多くのことを学ばせて戴きました。ここで経験させて戴いた多くの学びを藤が丘病院に還元していきたいと思っています。そして、多様な課題を抱えた現代医療の中でどのような病院薬剤師が輝き続けられるのか、日々自問自答し、患者さんの薬物治療や生活をより豊かにできるよう、未来に繋がる新しい業務を進めていきたいと考えています。

皆様のご期待に応えられるよう日々邁進し、そしてより一層チーム医療に貢献できるよう取り組む所存ですので、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

安心・安全そして患者さんに優しい医療を目指して

藤が丘病院 耳鼻咽喉科
診療科長 小林 斉

耳鼻咽喉科は、小児から高齢者の耳・鼻・咽頭・喉頭を扱う診療科であり、頭部から頸部までの小児科・内科・外科を網羅した診療科です。2021年4月現在、5名のスタッフと7名の専攻医、時短勤務の医師2名で診療を行っています。若い医局のため、毎日のカンファレンスを徹底して行い、安全な医療を目指しています。



カンファレンスの様子

現在多く治療している疾患は、耳科領域では突発性難聴やメニエール病を始めとしためまい・難聴疾患、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎の手術、顔面神経麻痺の治療です。

鼻科領域では慢性副鼻腔炎の治療、頸部疾患ではIgA腎症に対する扁桃摘出術・頭頸部癌の治療や甲状腺腫瘍の手術です。

【特徴的な治療】

最近慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎などへ経外耳道アプローチによる内視鏡手術を積極的に行っています。耳後部切開によるアプローチに比べ傷が小さいことで患者さんにメリットがあることや、顕微鏡手術に比べると中耳の観察に優れているため安全に手術ができます。突発性難聴の治療では他院ではあまり行われていない高気圧酸素療法を併用しています。

【外来治療の充実】

コロナ禍となり、入院への不安や面会制限などで入院治療を希望されない患者さんもいます。そのため、外来でできる治療が増えてきているようです。当科でも、鼓膜穿孔に対するリティンパを使用した鼓膜閉鎖術の治療や、生物学的製剤を使用したスギ花粉症の治療・慢性副鼻腔炎の治療を行っています。

【コロナ禍での治療】

耳鼻咽喉科は上気道を扱うためエアロソルの暴露が多い診療科といえます。COVID-19 が猛威を振るったことにより、全国的に一番患者数が減少した診療科は耳鼻咽喉科のようです。当院でも発熱患者はCOVID-19 感染が否定できるまで個室隔離をするため、個室での検査が必要な睡眠時無呼吸症候群の検査入院を中止しています。またエアロソル発生リスクがある鼻腔通気度検査や耳管機能検査も見合わせています。スタッフは基本N95 マスクを使用して診療し、またエアロソルが発生するリスクがある処置では歯科領域で使われていた吸引装置やクリーンパーテーションを使用し安全・安心な診察を心がけています。



エアロソル対策

左：吸引装置

右：クリーンパーテーション

近隣の先生方との連携を強化し、医局員一丸となって患者さんが安心して受診できる耳鼻咽喉科を目指してまいりますのでよろしくお願いいたします。

看護業績賞受賞を受けて ～患者さんとご家族の“笑顔”を繋ぐ～

藤が丘病院 集中治療センター
救急看護認定看護師 小林 恭代

このたびは、「多職種におけるリハビリチーム体制の構築と早期離床への活動」で、昭和大学令和2年度附属病院看護業績賞という名誉ある賞を頂けたことを大変光栄に思います。本賞はわたくし個人ではなく、集中治療センター看護師はじめ早期離床リハビリチーム・当センター担当リハビリ科の方々（PT/OT/ST）・薬剤師など多職種が連携し取り組んだ結果であると考えます。同時に早期離床を進める過程では、患者さんご自身の“回復力”と“笑顔”が私どもの力の源となっております。

青葉区周辺は既に高齢化人口が増えております。これからの医療は急性期から集中治療を受けながらも“もとの生

活に戻す”ため機能回復に向けた早期離床を推進し、患者さんが望むご自宅、または地域へ“繋ぐ”ことは重要な責務であると捉えております。今後も、患者さんとご家族の“笑顔”を繋ぐために、組織横断的にチーム力を発揮しその責務を果たせるよう引き続き尽力してまいります。

筋肉増量に炭水化物は不要？

藤が丘リハビリテーション病院 栄養科
中村 晃洋

健康志向が強まる昨今、筋肉の維持・増量やダイエットなど運動をする理由は様々だと思います。骨格筋の増量やダイエットに共通して「炭水化物を制限する方法」が流行しました。私も以前スポーツジムに通っていたときに、「炭水化物を抜いてたんぱく質を摂るように」と言われたことがあります。しかし、炭水化物制限は筋肉を増量するうえで逆効果です。

筋トレやスクワットのような高強度の運動や長時間の運動では、体内に貯蔵されているグリコーゲンの分解が促進されます。分解されたグリコーゲンはエネルギー源として使われます。そして、グリコーゲンが減少すると体内のたんぱく質が分解され、エネルギーへ変換されます。そのため、運動時間が長くなるとたんぱく質を構成しているアミノ酸もエネルギー源として使われるので、運動強度が高くなればなるほどアミノ酸の消費量も多くなります。

そこで、たんぱく質の分解を抑えるために、運動前に炭水化物を摂取しグリコーゲンを十分に貯蔵することや、運動後に炭水化物を摂取することが必要です。運動後にプロテインを摂取する方も多いと思います。市販されているプロテインは甘いものが多いようです。わざわざプロテインに甘さ、すなわち炭水化物が含まれているのは、飲みやすくするためというものも1つの理由ですが、たんぱく質の分解を抑える目的もあるのです。

体のたんぱく質の分解を抑えるために、普段から炭水化物を摂取することでグリコーゲンを蓄えておくこと、運動後も炭水化物を摂取することが重要です。



続・藤が丘病院ベスト指導医

前号は、今年度の藤が丘病院ベスト指導医・橋詰真衣先生より受賞に当たってのコメントを頂きました。今号では、惜しくもベスト指導医を逃された先生の中で、高評価を受けられた先生に対して寄せられた評価コメントを抜粋してご紹介します。指導医をはじめとする上級医の先生方、指導者であるメディカルスタッフの方々には、今後の指導にお役立ていただけたらと思います。

— 研修医から指導医への評価コメント（抜粋） —

- ✓ローテーション中だけでなく、今後数年間に渡って必要となる考え方、知識、他科との関わりを学び、臨床医として成長できた期間だと感じた。
- ✓診療中以外の時間にも、座学でしっかりと教えて下さって分かりやすかった。
- ✓症例発表の際、丁寧なご指導をいただいた。患者さんの病態や治療選択理由などを学べ、症例に対する理解が深まった。
- ✓クルズスの後に実践例を用いて自分ならどうするか等、考え方を教えていただいた。
- ✓スライドを用意して下さい、小さなクルズスを沢山していただいた。与えて下さる仕事量も研修医に負荷、過不足なく、指導医としてとても優れていると感じた。
- ✓3年目の先生がご自身も仕事に慣れていないにも関わらずこまめに連絡・確認をして下さった。
- ✓緊急性の高い疾患が多い科において、迅速に対する能力がいかに大切かということ学ぶことができた。
- ✓色々な手技を経験させていただくと同時に、手技を行う際には必ず近くで見守って下さり安心して行うことができた。
- ✓医学知識だけでなく、医師としての在り方も学ぶことができた。
- ✓進路先を決めたところ、進路先に関連した所見など多くのことを教えていただいた。
- ✓丁寧に教えていただき、苦手意識を持っていた手技への苦手意識がなくなった。
- ✓いつも1つ1つ丁寧に指導下さったため、分からないことも適宜質問しやすく、とても理想的な環境で研修できた。
- ✓カルテ診や回診の際のクルズス、どんな質問に対しても分かりやすい丁寧なご指導、疾患への細やかなご指導、毎日少しずつ知識が増えていくのが嬉しかった。
- ✓上級医の先生から適宜声をかけて下さり、質問しやすいとても研修しやすい環境だった。

- ✓症例の疾患ごとに分かりやすく講義していただいた。
- ✓遅い時間まで丁寧に指導して下さい、指導においては分かりやすい言葉や図を用いて下さり大変ためになった。

この評価コメントは研修医から指導して下さいすべてのスタッフへの謝辞でもあります。ご覧の上、今後とも研修医の心に響くご指導をよろしくしくお願いいたします。

藤が丘病院・リハビリ病院 第3回研究発表会を開催いたしました

10月4日(月)、藤が丘病院6階講堂にて2021年度藤が丘病院・リハビリ病院 第3回研究発表会を開催いたしました。

研究発表会は、藤が丘病院・リハビリ病院の医学研究の活性化に寄与することを目的としています。当日は医師・コメディカル他を合わせて10名が発表した後、昭和大学統括研究推進センター長 三邊武彦先生より「昭和大学の研究推進に関する取り組みについて」の講話も頂きました。

今回はコロナ禍であることを鑑み、会場には座長・両病院長・発表者の方々のみが集まり、視聴はオンラインのみでの研究発表会となりました。そのような中でも80名を超える方が集まり、質疑応答ではチャットを座長が読み上げる形式も取られ、大変有意義な発表会となりました。

今後も年2回の研究発表会を行い、医学研究の活性化を図りたく考えておりますので、皆様のご協力・ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

(藤が丘病院管理課 大林 真由美)



ご支援の御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しております。今までに頂いた応援メッセージを2点紹介させて戴きます。

現在、昭和大学藤が丘病院、昭和大学藤が丘リハビリテ

褥瘡対策セミナーのお知らせ

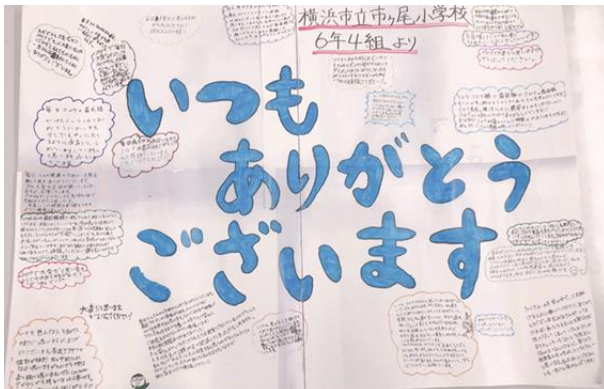
毎年恒例となった褥瘡対策セミナーですが、昨年はコロナ禍のために開催することができませんでした。今年は、あらかじめ収録したものを web にて公開する方式で開催いたします。より幅広い方へ向けた講演としましたので、医療従事者はもとより、一般の方も分かりやすい内容となっています。また、当院における新たな取り組みとして看護師特定行為修了者の活動についても講演いたします。

是非ご視聴いただきますようお願いいたします。

- 開催日程 11月15日～11月29日
- 視聴方法 藤が丘病院ホームページにて公開
- テーマ 明日からできる、褥瘡対策の知識と実践
- 講演
 - ①褥瘡治療に使用する薬剤と使用方法
藤が丘病院皮膚科 鈴木 茉莉恵
 - ②褥瘡患者の栄養管理
藤が丘病院栄養科 山尾 尚子
 - ③看護師特定行為修了者としての役割
藤が丘病院皮膚・排泄ケア認定看護師 富田 和也



あざみ野白ゆり幼稚園様より



横浜市立市ヶ尾小学校6年4組様より

ーション病院では、医師、看護師の他、多くのスタッフが治療や院内感染防止に一丸となって取り組んでおります。今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、医療従事者として、今一度気を引き締めて引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。

皆様からのご支援に対し、重ねてお礼申し上げます。

昭和大学藤が丘病院 病院長 高橋 寛

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 病院長 市川 博雄

診療統計 2021年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2021年8月	2021年9月	2021年8月	2021年9月
外来患者数	22,206人(888.2人/日)	22,069人(919.5人/日)	4,401人(176.0人/日)	4,416人(184.0人/日)
入院患者数	15,102人(487.2人/日)	14,803人(493.4人/日)	5,318人(171.5人/日)	5,370人(179.0人/日)
紹介率	76.8%	78.5%	75.7%	78.4%
逆紹介率	92.7%	90.1%	74.5%	96.6%

〈広報・公開講座委員会委員〉

森岡 幹	川手 信行	原田 浩史	鈴木 洋	佐々木 春明	今井 敦	市川 度
中田 土起丈	小岩 文彦	西村 栄一	小林 孝弘	泉 紀子	前田 うづみ	佐藤 美津恵
山寺 志保	黒田 上総	岡部 圭吾	門田 美佳	山田 大暉	高橋 良治	(順不同)